

## I 12・1月の連盟・日本連盟事業 ※会議等は除く

月 日	名 称	主 催	内 容
12/16(土) ～17(日)	トレーニングチーム・ ワークショップ	トレーニン グチーム	トレーニングチーム員の自己研究結果の発表

## II 事務局より

### (1) 茨城県連盟オリジナルカレンダー2024の頒布について

- ① 「撮っておきの写真コンテスト」とのコラボ企画「茨城県連盟カレンダープロジェクト」による2024年カレンダーができあがりしました。皆さんの団のスカウトは写っているでしょうか？頒布数は先着 200 部になります。育成団体や教育委員会などへの配付などにご活用ください。詳しくは、添付のチラシをごらんください。

### (2) 70周年記念誌の頒布について

- ① たいへん遅くなりました。茨城県連盟創立70周年記念誌（印刷冊子版）が出来上がりました。県連盟創設時からの全データが掲載されています。全456ページ、フルカラーです。1部 ¥10,000 で頒布しています。注文・問合せは、県連盟事務局まで。



## III コミッショナーより

### (1) IBグランプリ県大会について

今年度もIBグランプリ県大会を3月24日（日）笠間市芸術の森公園野外コンサート広場にて開催いたします。奮ってご参加ください。

#### ① IBグランプリエントリー台数について

Bクラス44台、Cクラス96台を2023年11月登録数で按分、Aクラス30台は一律

地区	Bクラス	Cクラス	Aクラス
1	3	6	5
2	12	27	5
3	4	12	5
4	12	24	5
5	6	14	5
6	7	13	5
計	44	96	30

#### ② デザイン賞・特別賞について

デザイン賞・・・グッドデザイン賞、ベストカラーリング賞、ユニークデザイン賞  
各1位～3位（金・銀・銅）を表彰

特 別 賞・・・連盟長賞、理事長賞、県コミッショナー賞

## IV 各種委員会よりのお知らせ

### (1) プログラム委員会

- ① 12月3日の救急法講習会ですが、参加申込者少数のため中止となりました。  
前回に引き続きの中止となってしまいました。救急法はすべてのスカウトが身につけるべき知識・技能ですので、積極的な周知と参加をお願いいたします。
- ② IBグランプリの日程が決まりました。  
3月24日(日) 笠間市芸術の森公園・野外コンサート広場  
規格やルールは昨年と同様です。

### (2) 指導者養成委員会

- ① 12月3日(日)に予定させていますゲーム研修会の募集は終了しています。  
参加申し込みが3名でしたので中止といたします。
- ② 11月5日(日)のハイキング研究会、11月26日(日)の第78回ボーイスカウト講習会も参加申し込みが少ない為、中止になっています。  
時期的な事があるのかしれません。内容的な事、開催時期についてなど、ご意見があれば各地区の指導者養成委員長にお寄せください。

### (3) カブ・ビーバーラリー実行委員会

- ① 第15回カブラリー・第6回ビーバーラリーが開催されました



11年ぶりとなるカブ・ビーバーラリーが11月12日(日)に水戸市総合運動公園で開催されました。904名のスカウト・指導者・保護者等の参加があり、午前中のスカウトラリー、午後のスカウト大運動会を実施しました。小雨の降る寒い天気の中でしたが、スカウトたちは元気に楽しく活動していました。

初めて午前・午後の二部制、そして体育館での開催、また11年ぶりで実行委員会も不慣れだったことから、準備段階からいろいろとご心配、ご迷惑をおかけしましたこと、お詫びいたします。皆様のご協力で、無事に開催できましたこと、感謝申し上げます。

実行委員会では、現在、次回大会の改善に向けてアンケートを実施しています。皆様のご意見を反映して、次回はよりよい大会が開催できるよう努めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、参加者が予定を上回ったこと（収入増）、水戸地区のご協力により施設使用料が大幅に抑えられたこと、各地区のご協力により行事経費が抑えられたこと（支出減）により、決算で残額が出ております。10月理事会でもご説明しましたように、残額については12月理事会で審議して一部をお戻しすることになりました。加盟員（参加費2,000円）一律1,000円を地区をとおして返金いたします。

	登録数(a)	参加予想	参加者数(b)	参加率 (b/a×100)
BVS	126	100	95	75.4%
CS	268	200	232	86.6%
BS	230	110	70	30.4%
VS	82	25	10	12.2%
指導者	517	290	282	54.5%
非加盟員		100	215	
計		825	904	

※登録者数は2023.11.1現在

<p>☆指導者アンケート</p> <p><a href="https://forms.gle/kDmCVtTGjFVp6gC89">https://forms.gle/kDmCVtTGjFVp6gC89</a></p> 	<p>☆スカウト・保護者アンケート</p> <p><a href="https://forms.gle/qY5cMc7XKUs953Qv7">https://forms.gle/qY5cMc7XKUs953Qv7</a></p> 
---	--

# ウッドバッジ実修所・団委員実修所

## をなぜ勧めるのか

ボーイスカウト講習会やウッドバッジ研修所の最後のセッションでは、必ず今後の研修についての講義があります。その際にお聞きしているとは思いますが、覚えていますでしょうか。「ボーイスカウトの指導者研修は、導入訓練・基礎訓練・上級訓練が一つの体系（セット）で、上級訓練を受けて、指導者として完成です。ぜひ上級訓練まで行ってください」と言われませんでしたでしょうか。

### ○導入訓練

ボーイスカウト講習会・・・ボーイスカウト運動の意義やスカウト教育法とその効果を知る

### ○基礎訓練

ウッドバッジ研修所・・・隊長・副長としての心構えや基本的な隊運営方法の修得

団委員研修所・・・団委員長・団委員としての心構えや基本的な団運営方法の修得

### ○上級訓練

ウッドバッジ実修所・・・隊長・副長としてのプログラム立案能力の向上、隊指導者としてのレベルアップ

団委員実修所・・・団の課題解決力の向上、団指導者としてのレベルアップ

特に現在のウッドバッジ研修所では、3泊4日のスカウトコースでボーイ隊のキャンプを体験しつつ、スカウト教育の基本を学び、日帰りの課程別研修で各隊の隊運営を学ぶことになりました。研修所で学べることは、隊運営のすべてを網羅しているわけではなく、その基本となるものに限られています。特に活動の中心である毎月の隊集会・班（組）集会をどのように運営していくのか、子どもたちの年代特性にあったプログラムをどう開発していくのかは、研修所が終わってからの実務訓練（実際に隊長・副長としての日々）にゆだねられています。

昔は各団・隊にベテラン指導者がいて、新任隊長・副長をサポートしたり、指導したり、叱ったりしてくれましたが、今ではそういう方も少なくなり、隊長・副長として「これでいいのだろうか」と悩みながら隊運営をしているのではないのでしょうか。

そうした隊指導者のプログラム立案能力の向上と隊指導者としてのスキルアップを目指すのがウッドバッジ実修所です。ウッドバッジ実修所ではプログラムに特化して、いかに楽しいプログラムを作成するか、そしてそこにいかにしてボーイスカウト運動の本質であるスカウトの教育を埋め込んでいくかを、4泊5日（BVS・CSは3泊4日）の第二教程で学びます。その第二教程の効果を高めるために、事前研究である第一教程（課題研究）ではコミッショナー・トレーナーの支援のもと、自隊におけるスカウトのニーズを集約したり、年間計画を評価したり、プログラムプロセスを点検したりして、自隊の課題を明確にしていきます。

第二教程から戻ったら、学んだことを隊活動に生かしながら、隊運営を改善していきます。第二教程で作成した隊集会計画書をもとに実際に隊集会を実施して、目指す教育効果が得られたのか評価していきます。また、第二教程でリストアップした自隊の課題を改善することにも取り組みます。ここではコミッショナーやトレーナーの支援を受けながら進めていきます。その結果をまとめて、報告書を作成して上級訓練は終了で、ウッドバッジとギルウェルスカーフが授与されます。

団についてはもっと状況は深刻で、コミッショナーの調査によれば、毎月定期的に団委員会を開催している団はわずかで、団会議と団委員会が一緒に開催されていたり、不定期の開催であったり、団委員の役割分担がされていなかったり、団委員会が機能していない団が多いことがわかっています。

本来、団がしっかりと活動できなければ、団の発展や維持はできません。資金の調達、活動場所・資材格納場所の確保、備品の管理、スカウトの募集、指導者の育成、登録事務など団が行わなければならない活動は多岐にわたります。しかし、団委員会がしっかりとしていないと、それらは往々にして隊に任せられ、隊長が隊活動に割くべき時間を侵食していきます。

そうした団本来の役割を確認して、団委員長・団委員として団委員会を実行力のある組織へと生まれ変わらせる機会となるのが、団委員実修所への参加です。団委員実修所では、2泊3日の第二教程（基本訓練）で団の組織について再確認するとともに、団を取り巻く組織との連携や地区・県連盟からの支援、団を改善するための評価の仕方と施策の立案を学びます。その第二教程の効果を高めるために、事前研究である第一教程（課題研究）ではコミッショナー・トレーナーの支援のもと、自団の状況を把握するために各種データを集めたり、自団の課題を抽出する作業を行い、明確にしていきます。

第二教程から戻ったら、学んだことを生かしながら、団運営を改善していきます。第二教程で作成した団の改善計画をもとに実際に団委員会等に諮りながら改善を実施して、進捗状況や結果・評価・さらなる改善計画の策定を進めます。また、第二教程で策定した自己研修計画に基づき、自己研鑽に努めます。ここではコミッショナーやトレーナーの支援を受けながら進めていきます。その結果をまとめて、報告書を作成して上級訓練は終了で、上級訓練修了章が着用できます。

以上のように、ウッドバッジ実修所・団委員実修所は隊長・団委員長には必須の知識や技能を学ぶ場ですので、必ず参加するようにしましょう。また、副長・団委員の方も、自身のスキルアップや隊長・団委員長を支える人材となるため、積極的に参加してください。

最後に「ウッドバッジ実修所（団委員実修所）に行くと、コミッショナーやトレーナーにさせられるから、行かない（行かせない）」ということをよくお聞きします。たしかに以前は日本連盟教育規程のコミッショナーやトレーナーの就任要件に『ウッドバッジ実修所を修了していること』という文言があったため、また現在はコミッショナーやトレーナーは上級訓練の支援を行うことからその経験がないと難しいと考えられるため、ウッドバッジ実修所（団委員実修所）を修了した方に「コミッショナーになっていただけませんか」と打診する場合があります。しかし、本来実修所はコミッショナーになるための訓練ではなく、あくまで隊のプログラムを楽しく有意義なものにするためのものです。そのチャンスを逃す手はないと思いませんか。ウッドバッジ実修所には全国から熱心な指導者が集まってきます。そこで得られる情報や人的な繋がり（実修所同期は長い付き合いになることもしばしば・・・）は、きっと皆さんの財産になると思います。そしてみんなが実修所に行くようになれば、「実修所に行くコミッショナーに」という状況はなくなるでしょう。**皆さん、ぜひ来年度は実修所に行きましょう！**

（5月の実修所に行くには、そろそろ第一教程をスタートさせねば！）

#### 【2024年度 隊指導者・団指導者上級訓練開設予定】

課 程	期数	県連盟	期 間	場 所
BVS	48	愛知	5/3(金)～5/6(月)	愛知連盟 新城・吉川野営場
CS	179	神奈川	4/27(土)～4/30(火)	御胎内清宏園
	180	滋賀	10/12(土)～15(火)	滋賀連盟 浅柄野野営場
BS	207	埼玉	5/2(木)～5/6(月)	日本連盟 那須野営場
	208	大阪	5/2(木)～5/6(月)	キャンプおおさか
VS	33	静岡	5/2(木)～5/6(月)	ボーイスカウト浜松太田山野営場
団	35	岐阜	10/12(土)～14(月)	岐阜市少年自然の家

## ウッドバッジ実修所第二教程 カブスカウト課程 セッションの目標

	セッション	セッションの目標
第1日	§ 1 実修所について (30分)	1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の運営を理解する。 3. コースの日程を理解する。
	§ 2 指導者の役割と責務 (90分)	1. カブスカウト隊の運営に必要な知識と技能を理解し、実践できる。 2. 自己の訓練ニーズを整理し、自分自身がコースで学ぶべき内容を明確にし、主体的に解決する意欲を持つ。 3. ちかいとおきての理解を深める。
	§ 3 カブスカウト隊のプログラムⅠ (150分)	1. カブスカウト隊の集会（組集会・隊集会）を体験し、自隊の組織と運営上の問題点と課題を認識する。 2. 実施した集会について、自隊との違いについて評価する。 3. 「カブスカウト活動の目標」がプログラムに深く関わっていることを理解する。
	§ 4 カブスカウト隊のプログラムⅡ (120分)	1. カブスカウト活動の基本的なプログラムプロセスを再確認し、より深く理解する。 2. カブスカウト部門のプログラムの特徴をより深く認識する。 3. カブスカウト隊におけるスカウト教育法の運用について認識する。
第2日	§ 5 プログラム企画Ⅰ [ニーズの反映] (120分)	1. プログラムプロセスにおいて、スカウトの興味や憧れ・保護者・社会・スカウト運動のニーズを活かす方法を認識する。 2. 年間計画に、カブ隊の活動に相応しい活動目標を設定することができる。 3. テーマの意義を理解し、スカウトにとって魅力ある、期待が高まるテーマが作成できる。
	§ 6 プログラム企画Ⅱ [プログラムの立案] (180分)	1. スカウトスキルを活用したカブ部門に相応しいプログラムを企画できる。 2. プログラム委員（会）のアイデアを活かし、より楽しい多様なプログラムを企画することができる。 3. テーマを活かし、技能・工作・ゲーム等を利用した多彩な野外活動プログラムを計画することができる。
	§ 7 プログラムへのアプローチ (90分)	1. カブスカウトにプログラムを魅力的で夢のあるものとして動機付けをすることができる。
	§ 8 プログラム展開の実施計画 (90分)	1. 月間プログラム計画を基に、隊集会実施計画書が適切に作成できる。 2. 隊集会につながる組集会実施計画書が作成できる。 3. 隊長として、組集会実施計画書の作成の支援・指導ができる。
	§ 9 プログラム展開の準備活動 (120分)	1. プログラムの準備・展開を充実させるためのさまざまな資源の活用方法について認識させる。 2. プログラムの実施展開のための役割分担、資料準備、安全管理ができる。
第3日	§ 10 プログラム実習 (270分)	1. 計画書に基づいて組集会・隊集会を実際の活動として展開することができる。 2. 表彰や進捗記事の伝達の場を、スカウトの意欲を高めるための動機付けとして活用することができる。 3. スカウトに、夢のある魅力的な野外活動プログラムを提供できる。
	§ 11 プログラムの評価 (90分)	1. プログラムには、達成すべき目標があることを理解し、実施後の評価ができる。 2. スカウト運動の目的やカブスカウト活動の目標の視点で、プログラムを評価することが重要であることを認識する。 3. § 5～10を通して、企画・計画・実施の評価が出来る。
	§ 12 保護者・地域社会へのアプローチ (90分)	1. 保護者のニーズ、地域社会のニーズについて認識する。 2. カブスカウト活動では、家庭での活動も重要なため、保護者との良好なコミュニケーションが不可欠であることを認識する。 3. スカウトの成長にとって、スカウト運動が役立つ教育運動であることを保護者に伝えることができる。
	§ 13 プログラムの改善 (90分)	1. プログラム実施後の適切な評価を踏まえて、プログラムを改善することができる。 2. 自隊のプログラムの改善点を発見し、より良いものとなるよう見直すことができる。
	§ 14 キャンプファイア (60分)	1. キャンプファイアの体験実習を通じて、その教育的意義を理解する。
	第4日	§ 15 第三教程（実務訓練）に向けて (60分)